

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



町田未来づくり研究所の発想の誤解

町田市が多摩のリーディングシティを目指す発想の幻想性

町田市のシンクタンク：町田未来づくり研究所は、町田市が多摩のリーディング都市を目指す発想を基本にしていますが、それは、以下の理由で現実をとらえるにはあまりに幻想的な発想に過ぎないものです。町田市は指標としての東京の市部の2番目に大きな自治体と言う存在ですが、その町田市の経済文化は多摩地域と言う様相はごく一部にしか過ぎません。現実には、その市民生活において区部との関係（小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線）が大きく、あるいは神奈川県内の3政令指定都市と行政界が隣接して身近に存在しているのが特徴です。同じ多摩地域と言われても西武新宿線沿線とはほぼ生活の縁がありませんし、一般にはなじみのJR中央線すら日常生活圏とは異なるものです。

今後、多摩モノレールが延伸開通して、町田市内の交通不便地域の生活向上につながる面もあるが、所詮、町田市全体に取って立川市とつながるメリットは中規模輸送力の一交通路線が新設されるに過ぎないと言えましょう。交通インパクトでいうと、リニア中央新幹線が相模原市緑区橋本にでき、都心の品川駅と直結して利便性を高める位置を示せば、町田市はその枢要な周辺エリアを形成する意義が大きいと言えるでしょう。

さらに、町田市は、そのリニア中央新幹線駅と東海道新幹線新横浜駅の間に位置しており、今後はその交通位置関係を生かすことが肝要で、町田市が多摩地域と言うことに拘泥することは経済文化の発展の足かせとなるでしょう。そうした観点で町田市と町田市民の将来の姿を見ることが真に町田市の発展に必要な考え方であると言えるでしょう。



一般質問：キャリア教育と職業教育の関係

町田市は、「小中一貫町田っ子カリキュラム」

教育委員会に対して、キャリア教育と職業教育の関係を尋ねました。町田市は、「小中一貫町田っ子カリキュラム」という名称で、キャリア教育を進めています。文科省は、キャリア教育と職業教育を2本立て構想していると文面から読み取りましたが、町田市の見解では職業教育は高校・大学で行われるもので、(義務教育の)小中学校では実施していないというものでした。町田市は「キャリア・パスポート」というものを作成していますが、町田市では職業教育を実施していないために、卒業生にもその先の進路先にも職業教育の成果を盛り込みようがありません。



私自身の考えは、「お金は汗水を流して稼ぐものと理解しているが、現実には、どういう方法かは別にしてお金を自分で稼ぐ必要性を育成すること、あるいは就業する意識を持つことが欠かせない」という意見を様々の視点から述べましたが、ほとんど反応はありませんでした。その観点から、子どもの世代に対して、「なんでも無料」の施策ばかりを見せて、それが小中学生の将来の役に立つのか。という今の教育の現状や時勢に疑問を呈しました。

これから世の中、日本はもっと混沌としてこよう

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる
町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第
56期生の報告掲載中。

インターン体験記③露木 莉子

今回は、ボタンの博物館に訪問させていただきました。今までボタンについて深く考えたことがなかったのでとても興味深い経験になりました。

ボタンの博物館には、世界や日本の様々なボタンが展示されていました。私は、ボタンは服を留める機能としてしか見ていなかったのですが、ボタンをステータスとしてつけられていたことや丸いキャンバスとして捉えていること、「ボタンが様々な表情を見せる」という言葉には大変驚きました。実際に見た中で、ガラスが埋め込まれているボタンは繊細で、なぞかけボタンは遊びどころもあり印象的でした。また、ボタンからは文化的な要素も感じられ、特に、革命前後で貴族の豪華で優美なボタンから勝利を勝ち取った庶民的なボタンへの変化は対照的でした。Gay'90 ボタンでは、使う人が変化した庶民にも普及したため、作られ方も変化したそうです。ボタンに機能性や芸術性、権力を示す象徴だけでなく、歴史的背景が表れているということを学びました。



昭和女子大学3年生 露木莉子(第56期生)

自分が生活している中で、ボタン一つについてこんなにも真剣に向き合ったり、考えたりしたことはありませんでした。生活の中で、色々なことに敏感になり気づきを増やしていくことで、自分の興味や関心を引き出していきたいなと感じるきっかけとなりました。

インターン体験記⑥-1 岡田愛海

カップヌードルミュージアム見学と製造体験

今回のインターンシップでは、午前にかップヌードルミュージアムに行き、安藤百福さんの歴史や商品の展示を見て回りました。展示会場の作りは見ている人が楽しめるデザインが凝らされており、尚且つ見やすさとわかりやすさを中心に考えられていると感じました。展示の流れは、安藤百福さんの人生をまとめた十五分ほどのストップモーションアニメを見たのち、壁伝いに年齢別の出来事をわかりやすくまとめていました。

事業に失敗したことからカップ麺の発明、宇宙食の開発まで……安藤百福さんの人生を語るのにたった三つの壁では足りないでしょう。普通なら通路の反対側にある壁も使っていそうなものですが、安藤百福さんの六つのキーワード「まだ無いものを見つける」「なんでもヒントにする」「アイデアを育てる」「タテ・ヨコ・ナナメから見る」「常識にとらわれない」「あきらめない」に関する映像やオブジェ、特別ルームなどを設けていました。おそらく、映像物等と共に壁の安藤百福史を見ることで、より印象に残るようデザインされたのではないかと思います。

安藤百福さんから学ぶ様々なことや、カップ麺の製造を楽しく知ることができるこのミュージアムは、「子供から大人まで楽しめる」ということを大事にしているのだと感じました。



横浜美術大学4年生 岡田愛海(第56期生)

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年8月末までに114名が参加しました。

◎第55期インターン生の森田瑛斗さんは、医師国家試験に合格し、4月1日から研修医として社会人。

◎2025年夏季第56期生インターンシップには合計3名の応募者を受け入れ、現在研修中。

*次期のインターンシップは、2026年春季第57期の受け入れで照会中です。

インターンシップで若者育成の貢献

町田市議・完全無所属・良識ある保守

吉田つとむ



好評インターンシップは、欠かさずに続いている

インターン体験記⑤渡部 結衣

議員からヒアリングを行う職員の説明に立ち会う

今回のインターンシップでは、市役所職員の方々による議員からのヒアリングを体験しました。特に文化スポーツ振興部の職員の方々からは、「国際工芸美術館」で展示予定の作品に関する取り組みについて伺いました。そこでは、有名工芸品の由緒や歴史に関する吉田議員からの質問にとどまらず、展示品がどの程度の集客力を持つのか、さらには作品を寄贈する企業側には「地元に貢献したい」という思いが込められているのかといった視点からも質問までもが展開されていました。また、町田市により深くゆかりのある人物の作品を取り扱うべきではないかという意見や、町田市が所蔵する工芸品が他の美術館に展示された際の情報発信は十分に行われていたのかといった文化・芸術に関する広範な問題意識も示され、行政の対応の幅広さに大変驚かされました。



私は、政治家や行政と聞くと「政策」や「制度」といった直接的な政治課題を中心に取り組むという印象を抱いていました。しかし実際には、文化や芸術といった市民生活を豊かにする分野についても真剣に議論が重ねられており、その重要性を再認識する機会となりました。今回の経験を通じて、行政が担う役割の多様さと、地域社会における文化的資源の活用のあるり方を深く考えることができ、大変貴重な学びを得ることができました。

大妻女子大学1年生 渡部 結衣 (第56期生)

インターン体験記⑥渡部 結衣

今回のインターンでは、吉田議員も所属する無所属会派が主催する電子投票に関する勉強会を町田市選挙管理委員会に「お知らせ」する活動、そして町田市民による請願書のヒアリングを経験しました。まず、電子投票の勉強会については、吉田議員が町田市役所9階にある選挙管理委員会を訪れ、「お知らせ」と「ご案内」という表現のわずかなニュアンスの違いに配慮しながら丁寧に伝えられる姿を見学しました。普段何気なく使っている言葉にも、公的な場面では適切さや受け取り方の違いを意識することの重要性を学びました。

さらに、町田市民による請願依頼のヒアリングにも立ち会いました。内容は「芹が谷公園町田荘の補強整備工事の延期」を求めるもので、実際に市民の方から直接請願の理由や思いを伺うことで、行政手続きが生活に直結していることを実感しました。加えて吉田議員から、請願書を議会に提出するには市議会議員一名以上の署名が必要であることに関する、詳細な説明をいただきました。制度的な知識だけでなく、その背後にある市民の声の重みを肌で感じることもできた点が印象的でした。

高校の公共の授業以来、政治運営のプロセスに改めて触れる機会を得たことで、行政・議会と市民社会との結びつきを実感すると同時に、自分自身も社会の一員として政治や行政に対して主体的に関わる姿勢を持つことの大切さを強く感じました。今回の経験は、今後政治を学んでいくうえで大きな糧となる貴重な体験となりました。



大妻女子大学1年 渡部結衣 (第56期生)

◎吉田つとむのインターンシップは、参加者との個別対応が特徴です。

◎吉田つとむのインターンシップは、社会人になった先輩インターン生との直線面談が大好評です。

◎就業先は一般企業就職が最大で、次いで公務員や教職。弁護士が3名、医師も1名。

町田市議会議員・ネット発信NO. 1

吉田つとむ

ユーチューブ動画 930 万回再生突破



マルチメディアの
双方向情報発信を続ける
吉田つとむ発見動画チャンネル



バイオエネルギーセンター復旧予算質疑

工事期間は施設の操業停止、他所に焼却依頼

第3定例会の本会議質疑で、町田市がごみ処理の資源化施設として新たに建設した「町田市バイオエネルギーセンター」で発生した、混入したリチウムイオン電池の火災事故被害状況と復旧事業内容を尋ねました。

今回の3回の事故(1年以上の運転停止、他自治体に焼却処理を有料依頼)では、業者に運転ミスが認められなく、リチウムイオン電池の混入、発火が原因で、不可抗力の事故とみなされたために、業者負担ではなく、町田市の負担とするものでした。また、追加的な安全対策は機械化だけでなく、人力が必要で、現在5名で行っている手作業によるリチウムイオン電池などの発火物の除去作業を8名に増員する措置がとられます。



バイオエネルギーセンター見学時の写真

操業前や創業直後に訪れた際には、全自動に近いと思えたバイオエネルギーセンター施設ですが、収集したごみの異物混入を防ぐ手段が多数の人の目と手作業だという課題はごみ処理現場の大変さと、市民のゴミ出しの意識改善と分別がいかに重要かと再認識するものでした。施設の復旧等費用額は14億2172万8千円。他所に焼却依頼した費用は含まず。

一般質問：工芸美術館建設費と寄付金額

「町田市の(仮称)工芸美術館建設への寄付金額は、建設計費相当の数十億か、数億か、数千万ほどか」と質問しました。この質問は、町田市の(仮称)工芸美術館建設への市民的な共感がいかほどあるかを問うたものです。

しかし、答弁ではふるさと納税で「数百万円レベル」とのことでした。この工芸美術館建設は契約不調が続く、さらに4回目の入札で仮契約した企業がその解約を申し出るという前代未聞の事態が起き、さらに町田市はその入札金額を引き上げるための増額補正予算を建て、議会が賛成多数で支持する不思議な事態をもたらしているものです。本来ならば、次の機会に市民の判断を仰ぐべき事業です。

町田市は市民の声を聞いたというのですが、そもそも、今期の石阪市長が公約から外していた事業です。5期目当選後に改めて事業化を進めてきたものですが、市民や他の人々の共感度合いは、工事費(50億円になろうとしている)の千分の1ほどの金額しか寄付金で集まってこないものです。今回の質問は(仮称)町田市立国際工芸美術館というものが、市民の共感をいかほど得られているか、大半の市民には支持は得られていないという証明を数字で明らかにしたものです。



町田市の基本構想のイラストを使用

◎町田市議会は定数36名(3名欠員)。大多数はそれぞれの会派に所属しますが、会派に属しない諸派議員が5名です。吉田つとむは、「無所属」という3名の会派に所属。議員は原則「会派」単位に活動し、一般質問は個人で行います。

その会派「無所属」の3名は、採決において、自由に賛否を決める場合があります。